

# 島田市観光マップ / 金谷版

## ●●●●●みどころ●●●●●

### ■金谷宿の成立

徳川家康は、1601年東海道伝馬制度を制定した。金谷宿は江戸から51里(約204km)、品川宿から数えて24番目の宿場として定められた。

※伝馬制度とは、公用荷物の継ぎ送りする役目を負い、金谷宿には人足と36疋の馬が用意されていた。最盛期の天保年間には人足100人、馬100疋の記録が残されている。

### ■金谷坂石畳

この坂は、急坂な上に粘土質であるために雨が降るたびに滑りやすく、大名行列や旅人は難儀しました。このため正確な時期は不明ですが文久2・3(1862・1863)年頃、石畳が敷設されたと推測されています。その後近代に入り道路地中に鉄道関係の通信線や電話線等が埋設され、さらには車が通れるようにコンクリート舗装がされ、石畳の面影を無くしていましたが、平成3年町おこしとして「平成の道普請・町民一人一石運動」が展開され71000個の山石を使い、430mの石畳が復元されました。

江戸時代、金谷宿は天領(幕府の直轄地)で、宿駅・伝馬・川越えに加え街道の保全など多くの役務が課せられていたが、これらの労務の多くは「助郷制度」に頼ったといわれている。

\*「助郷制度」とは街道の荷物運搬などの増大に伴い、宿場常設の人馬では対応できなくなったため、周辺の村々に出役を賦課した制度

### ■芭蕉句碑「野ざらし紀行」

長光寺の芭蕉句碑  
道のべの木槿は馬に喰われけり  
牧之原峠の芭蕉句碑  
馬に寝て残夢月遠し茶の烟

### ■すべらず地蔵尊

金谷坂石畳の途中には町民有志が建立した「すべらず地蔵尊」がある。旅人の足元を守ってきた「滑らない山石」にあやかって、「すべらず」、「ころばず」進むようにと最近では多くの受験生や家内安全・商売繁盛の願掛け参拝者で賑わっている。毎年1月には現地で開催祈願祭が行われる。

### ■明治天皇御駐輦所

明治元年(1868)、王政復古で誕生した明治天皇が「遷都御東幸」の途中、ここ「牧野原野立所」で休息、“霊峰富士をお望みになられた”時の記念碑。明治22年、国鉄が開通する以前の、旧東海道の「御巡幸」は4回で、いずれもここを利用されている。

### ■諏訪原城跡

戦国の武将、武田信玄親子二代の野望の象徴、徳川家康との「国盗り合戦」の舞台となった所の一つで、「甲州流築城法」の典型的な「山城の跡」といわれる。巨大な二重の空堀や丸馬出し等の遺構は九分通り現存しており、国指定の史跡となっている。

### ■菊川坂石畳

金谷坂石畳と同じく江戸時代に整備されたもので、平成12年の発掘調査により道延長161mが江戸時代後期の石畳として確認され、県指定史跡となっている。その他の部分については金谷坂石畳同様ボランティアなどの参加を得て、平成13年、延長611mの石畳が完成した。

### 連絡先

島田市観光協会 TEL 0547-46-2844

金谷駅前観光案内所 TEL 0547-46-3500

